

令和6年度職業能力開発調査

(高等学校(教員)調査)結果

1 調査の目的

県内の高等学校の進路指導担当教員を対象に、高校生の進路に関する意識や進路指導における高等技術専門校の位置づけ等を伺い、職業能力開発計画の策定及び産業人材育成施策策定の基礎資料とする。

2 調査の内容

(1) 調査対象機関

県内の高等学校224校(県立・市立・私立、全日制・定時制・通信制)

県立157校、市立6校、私立61校

(2) 調査実施日 令和6年8月1日現在(進学率、就職率は直近の数値)

- #### (3) 調査実施方法
- ・県立高校 調査票を電子メールで送付、回答
 - ・市立、私立高校 郵送送付、郵送回答

(4) 調査票 別紙のとおり

(5) 調査実施期間 令和6年8月16日から9月30日

(6) 調査項目(主なもの)

- ・生徒の職業観について
- ・キャリア教育の実施について
- ・進路指導における高等技術専門校の位置づけについて

令和6年度埼玉県職業能力開発調査(高等学校(教員)編) 調査結果

○回答校の属性

	課程	対象校	回答校	回答率
県立	全日制	133	71	55.4%
	定時制	23	15	
	通信制	1	1	
市立	全日制	5	1	33.3%
	定時制	1	1	
私立	全日制	48	25	47.5%
	通信制	13	4	
合計		224	118	52.7%

・全体の回答率は52.7%
 回答率の高い属性
 設置別: 県立 回答率55.4%
 課程別: 定時制 回答率66.7%
 進学率: 8割以上の高校 回答率61.7%
 就職率: 3割未満の高校 回答率61.9%
 ・全日制課程の進学率が高く、定時制課程の就職率が高くなっている。

全日制	186	97	52.2%
定時制	24	16	66.7%
通信制	14	5	35.7%
合計	224	118	52.7%

※参考
 令和6年3月埼玉県高等学校卒業生
 進学率 85.2%
 就職率 9.8%

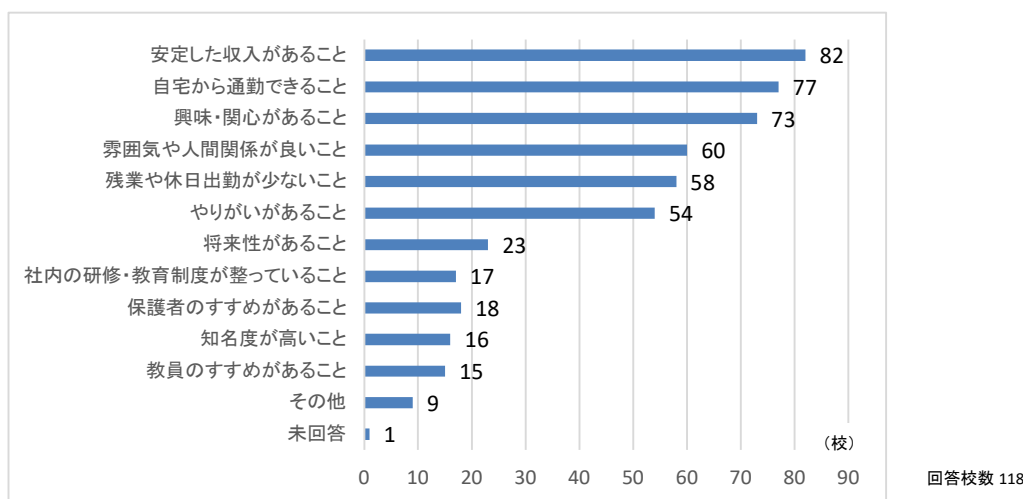
進学率	回答校 (構成割合)
8割以上	61(51.7%)
5割以上 8割未満	36(30.5%)
3割以上 5割未満	17(14.4%)
3割未満	4(3.4%)

就職率	回答校 (構成割合)
8割以上	5(4.2%)
5割以上 8割未満	10(8.5%)
3割以上 5割未満	30(25.4%)
3割未満	73(61.9%)

	課程	進学率	就職率
県立	全日制	73.9%	25.3%
	定時制	47.7%	49.5%
	通信制	44.0%	8.0%
市立	全日制	85.0%	15.0%
	定時制	40.0%	50.0%
私立	全日制	91.8%	2.2%
	通信制	55.8%	16.0%
合計		73.3%	23.3%

※回答校平均
 進学、就職以外の進路は含んでいないため
 合計は100%にならない

問1 生徒が就職先の決定について重要視していることは(複数回答可)



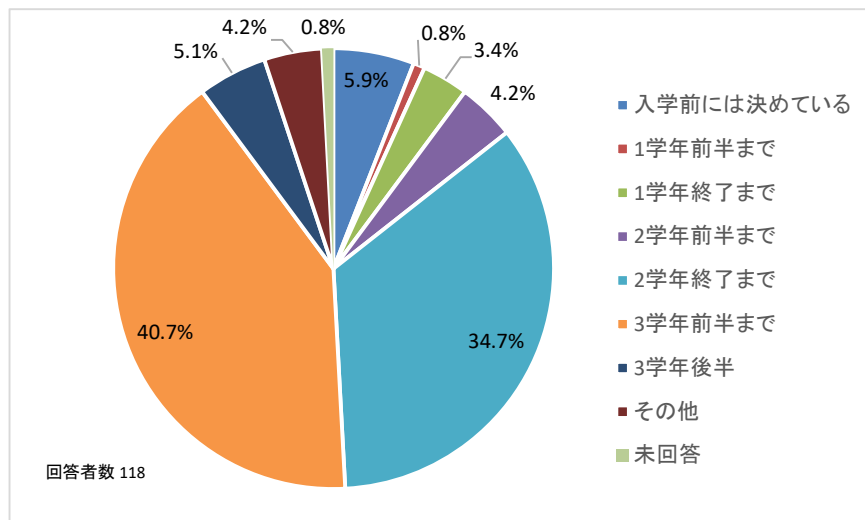
【まとめ】

- (1) 「安定した収入があること」が最も多く、7割弱の学校が選択している。
- (2) 「自宅から通勤できること」は6割台半ば、「興味関心があること」は6割強の学校が選択している。

※その他の回答

相談できる・しやすい環境がある、知り合いや先輩が過去に就職している、夜勤の有無

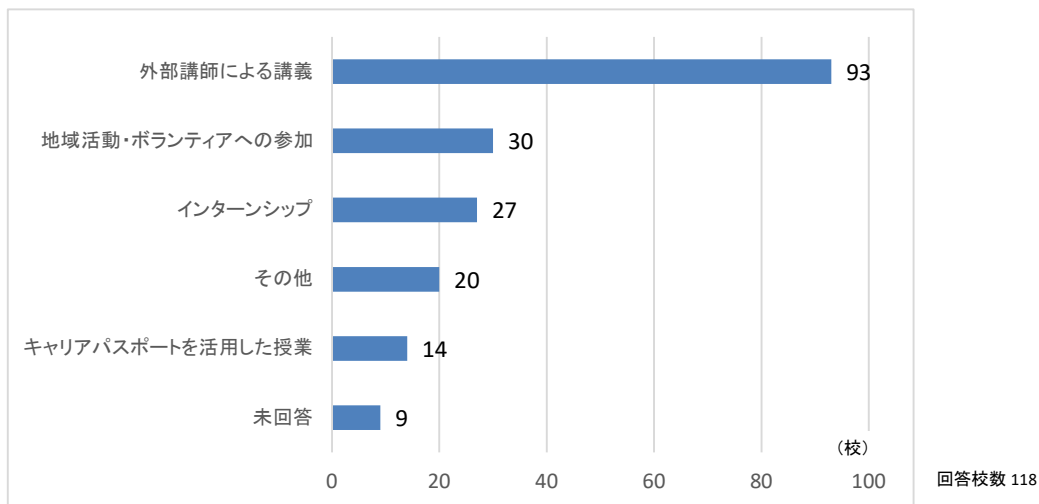
問2 生徒の進路決定時期



【まとめ】

- (1) 「1学年終了時まで」に進路を決めているのは1割強だが、「2学年終了時まで」では5割弱まで大きく増加する。
- (2) 9割が「3学年前半まで」には進路を決定している。
- (3) 設置主体別では「入学前に決めている」との回答比率が私立高校では他に比べてやや高い。

問3 キャリア教育の実施状況(複数回答可)



【まとめ】

- (1) 「外部講師による講義」を実施している学校が最も多く、回答校の8割近くが実施している。
- (2) 全ての設置主体においても「外部講師による講義」が最も多い。

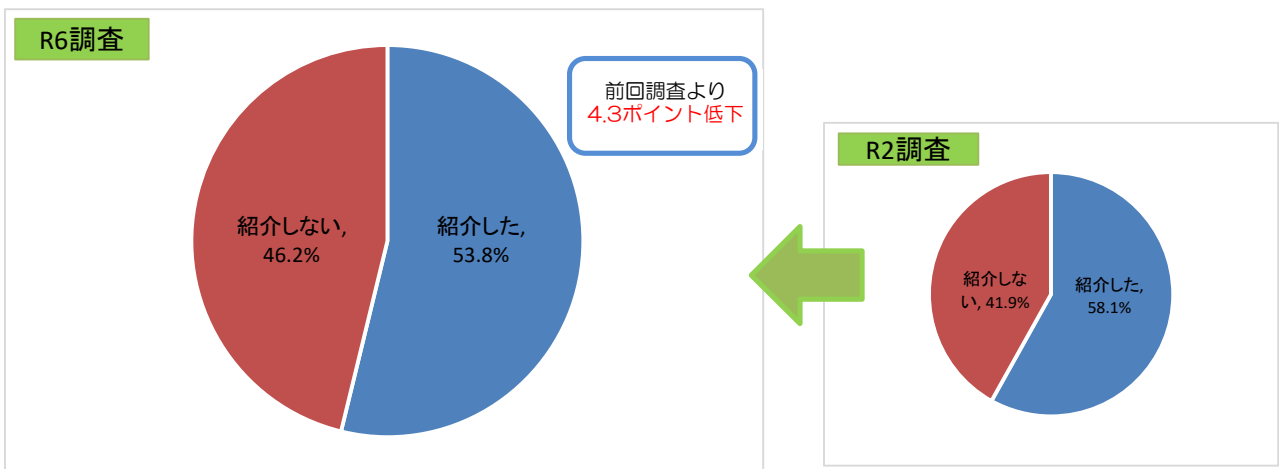
※その他の回答

- 卒業生による講演会
- 就職した卒業生との懇談会
- 職業体験の紹介
- 会社見学会
- 外部講師による面接指導
- 中小企業の経営者を招いての懇談会
- 外部機関との連携による分野別職業体験
- 企業・学校合同説明会
- 総合学科必修科目「産業社会と人間」を通じたキャリア教育

問4 直近3年間の進路指導で生徒(卒業生含む)や保護者に高等技術専門校を紹介した割合

紹介した	63校(53.8%)
紹介しない	54校(46.2%)

回答数 117



※「進路指導で高等技術専門校を紹介した」高校(63校)の内訳

[課程別]

全日制 52校(82.5%)、定時制 9校(14.3%)、通信制 2校(3.2%)

[設置主体別]

県立 58校(92.1%)、市立 1校(1.6%)、私立 4校(6.3%)

[進学率別]

8割以上 18校(28.6%)、5~8割 29校(46.0%)、3割~5割 14校(22.2%)、
3割未満 2校(3.2%)

[就職率別]

8割以上 1校(1.6%)、5割~8割 10校(15.8%)、3割~5割 26校(41.3%)、
3割未満 26校(41.3%)

【まとめ】

(1) 5割強の高校で「進路指導で高等技術専門校を紹介した」と回答した。

(2) 「高等技術専門校を紹介した」高校の属性のうち最も多い区分

(課程別) 全日制が82.5%

(設置主体別) 県立学校が92.1%

(進学率別) 進学率5割以上の高校で74.6%

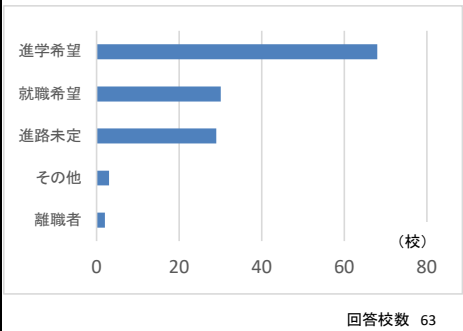
(就職率別) 就職率5割未満の高校で82.6%

主に進学率が5割以上又は就職率が5割未満の高校で高等技術専門校を紹介している。

→進学率が高く、就職率が低い学校において、高等技術専門校を紹介している。

問5-1 高等技術専門校を紹介した生徒の属性(複数回答可)

	回答数	構成割合	R2回答	
進路未定者	29	22.0%	6.8%	
進学希望者	①高技専に近い工業系	31	51.5%	65.4%
	②経済的に困窮	36		
	③その他	1		
就職希望者	①無資格等で就職に不安	23	22.7%	27.1%
	②採用試験で不採用	5		
	③その他	2		
卒業生	①進学先を中退	0	1.5%	0.0%
	②就職先を離職	2		
	③その他	0		
高校中退者	0	0.0%	0.7%	
その他	3	2.3%	0.0%	



【まとめ】

- (1) 「進学希望者」が最も多く、そのうち最も多いのが経済的理由である。次いで「就職希望者」となっている。
- (2) 前回調査では1割未満であった「進路未定者」が2割強に増加している。

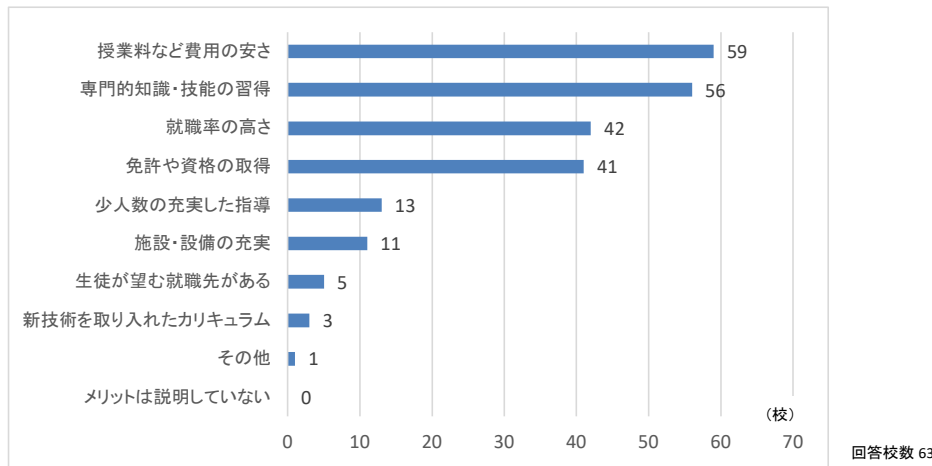
※その他の回答

生徒本人の希望、就職に不向きで経済的余裕がない生徒

問2-2 生徒に説明した高等技術専門校のメリット(複数回答可)

	回答数	回答割合※	R2回答※
授業料など費用の安さ	59	93.7%	94.6%
専門的知識・技能の習得	56	88.9%	82.4%
就職率の高さ	42	66.7%	59.5%
免許や資格の取得	41	65.1%	51.4%
少人数の充実した指導	13	20.6%	28.4%
施設・設備の充実	11	17.5%	10.8%
生徒が望む就職先がある	5	7.9%	4.1%
新技術のカリキュラム	3	4.8%	0.0%
その他	1	1.6%	0.0%
メリットは説明していない	0	0.0%	0.0%

※回答校 (R6:63校、R2:74校)のうち回答した割合



【まとめ】

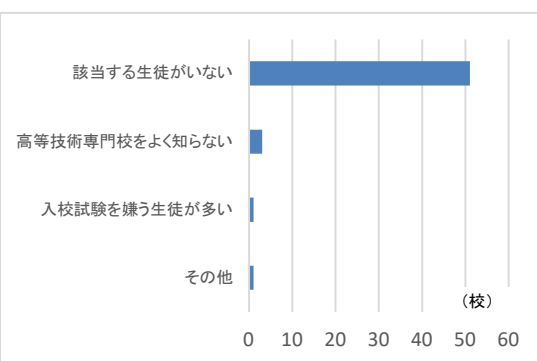
- (1) 「授業料など費用の安さ」が最も多く、63校のうち9割強が回答している。次いで「専門的知識・技能の習得」を9割近く、「就職率の高さ」を7割近く、「免許や資格の取得」を6割台半ばが回答している。
- (2) 令和2年度の調査と回答割合の順位は変わっていない。
- (3) 上記のメリットを含めて「少人数の充実した指導」など、高等技術専門校のメリットが十分に理解されているとは言えないため、効果的な周知が必要である。

※その他の回答

丁寧な指導を受けられる

問6 高等技術専門校を紹介したことがない理由(複数回答可)

	回答数	回答割合※	R2回答※
該当する生徒がいない	51	94.4%	100.0%
高等技術専門校をよく知らない	3	5.6%	6.0%
入校試験を嫌う生徒が多い	1	1.9%	2.0%
その他	1	1.9%	2.0%
適切な訓練がない	0	0.0%	0.0%
専門的知識・技能が習得できない	0	0.0%	-
適切な指導が受けられない	0	0.0%	0.0%
施設・設備が充実していない	0	0.0%	0.0%
カリキュラムが古く時代にマッチしていない	0	0.0%	0.0%
遠方すぎて通校できない	0	0.0%	1.8%
必要な免許や資格の取得につながらない	0	0.0%	0.0%
就職に有利とは思えない	0	0.0%	0.0%
入校するメリットがない	0	0.0%	-



回答校数 54

※回答校 (R6:54校、R2:50校) のうち回答した割合

【まとめ】

- (1) 高等技術専門校を紹介したことがない54校のうち、9割台半ばが「該当する生徒がいない」と回答している。令和2年度調査でも最も多い理由として挙げられている。
- (2) 「該当する生徒がいない」という回答の中には高等技術専門校を十分理解していないために、そう判断している場合もあると推測される。したがって十分に理解を深めてもらう取組が重要である。
- (3) カリキュラム、資格取得や施設等に関する回答が0件であることから、訓練内容等が紹介しない理由となっていないと考えられる。

※その他の回答

生徒から希望があったため「紹介したことがない」と回答した。

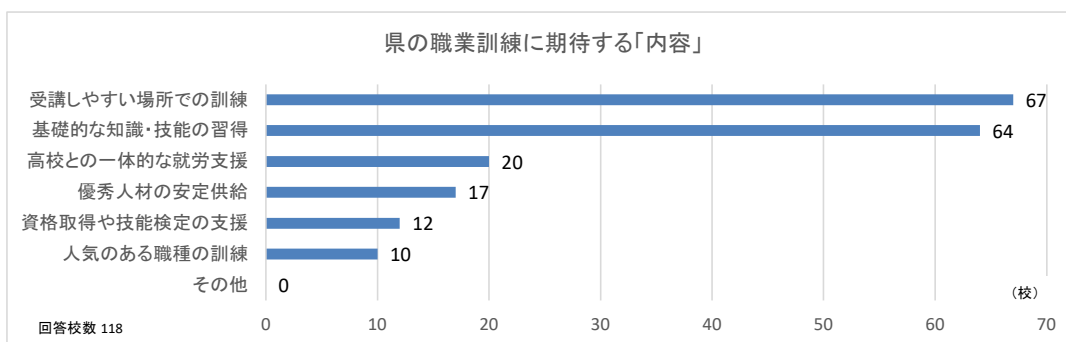
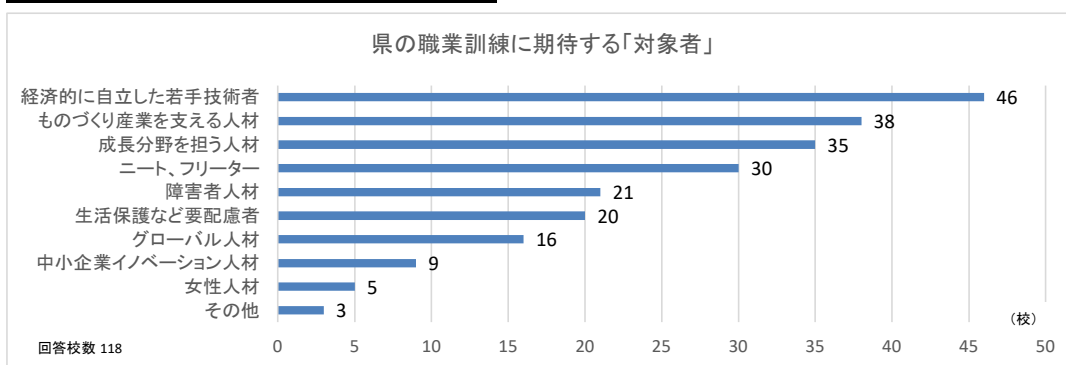
問7 埼玉県職業訓練に期待すること(回答2つまで)

(1)対象者

	回答数	回答割合
経済的に自立した若手技術者	46	39.0%
ものづくり産業を支える人材	38	32.2%
成長分野を担う人材	35	29.7%
ニート、フリーター	30	25.4%
障害者人材	21	17.8%
生活保護など要配慮者	20	16.9%
グローバル人材	16	13.6%
中小企業イノベーション人材	9	7.6%
女性人材	5	4.2%
その他	3	2.5%

(2)内容

	回答数	回答割合
受講しやすい場所での訓練	67	56.8%
基礎的な知識・技能の習得	64	54.2%
高校との一体的な就労支援	20	16.9%
優秀人材の安定供給	17	14.4%
資格取得や技能検定の支援	12	10.2%
人気のある職種の訓練	10	8.5%
その他	0	0.0%



【まとめ】

○対象者

- (1) 「経済的に自立した若手技術者」への支援に期待するとの回答が最も多い。
- (2) 次に「ものづくり産業を支える人材」、「成長分野を担う人材」との回答が多い。

※その他の回答

- ・障害者として手帳が発行されない、いわゆる「グレーゾーン」の生徒が自立して生活していけるようソーシャルスキルトレーニングを兼ね備えたような総合的能力開発
- ・音楽関係の職業

○内容

- (1) 「受講しやすい場所での訓練」との回答が最も多い。
- (2) 次に「基礎的な知識・技能の習得」との回答が多い。

※その他の回答

- ・具体的内容
 - 事務
 - IT (パソコン) 関係、情報系の充実、情報処理の訓練が川口校にしかなく不便である
 - 設置を望む訓練科目
 - パソコン、AI
 - プログラミングやCG, 画像処理、動画編集技術等
 - 音楽に携わる職業経営
 - ソーシャルスキルトレーニング
 - 資格・検定種目名
 - ITパスポート等IT関係
 - 電気工事・水道工事・ガス工事などの特殊であるが必須の資格
 - 現在ある講座を今後も継続させてほしい
 - CAD
 - 消防設備
 - 自動車整備
 - 医療系、介護系の資格
 - 調理師
 - 色彩、グラフィックデザイン、カラーコーディネーター、プロダクトデザイン、トレース、カラーデザイン、照明士

問8 県の職業訓練に対する意見・要望(自由記述)

【情報処理科】

- ・IT系の能力を身につけたいが、専門学校へ通う費用が捻出できない生徒が多くいる印象を受ける。多職種に就いたとしてもIT、ICT機器に精通していることは就職後の力になると思うので、現在1校のみの「情報処理」を増設していただきたい。(県立全日制)
- ・情報処理科が川口校にしかなく、生徒に勧めにくい現状がある。(県立全日制)

【建築科】

- ・県南地域の建築科設置を希望する。(県立定時制)

【その他訓練科】

- ・園芸、農業分野があっても良いのではないかと。(県立全日制)
- ・各学科の半年間程度の短期コースの拡充を希望(短い訓練期間で企業に人材を送るため)。(県立定時制)
- ・企業が求めるスキルの研究を進め、求職者と応募者のニーズに沿った訓練内容の設定及び実施を期待したい。(県立全日制)

【高等技術専門学校への評価(良い評価)】

- ・卒業生が高等技術専門学校にて充実した日々を過ごしていると報告を受けている。今後も経済的負担の小さい中で実践的な指導を継続していただきたい。(県立全日制)
- ・通いやすい地域に職業訓練校が設置されており、ありがたい。(県立全日制)

【高等技術専門学校への評価(授業料)】

- ・授業料の低価格(低コスト)は、是非とも維持してもらいたい。(県立全日制)
- ・経済的事情のある生徒も多いので、今後も授業料を安価に維持していただきたい。(県立全日制)
- ・職業に直結した資格を取るために専門学校への進学を希望する生徒の中で、経済面で進学が難しい生徒がいるときに高等技術専門学校を薦めたことが何回かある。(自動車整備の学科や情報系の学科)
- ・学費の安さがほとんど高校並みなので必要な生徒にはとてもありがたい存在だという認識がある。(県立全日制)

【高等技術専門学校の周知について】

- ・高等技術専門学校については、良さが十分に生徒へ浸透していない印象がある。専門学校の広告宣伝技術を参考にしながら(予算を割き)、魅力を伝えていってもらいたい。(県立全日制)
- ・もう少し、PR活動をして周知した方がよい。(県立全日制)
- ・出口の部分にあたる就職指導の全容が世間一般に知られていない。もう少し周知する機会を作っていただきたい。(県立全日制)
- ・進路指導の一環で高等技術専門学校の職員に高校に来てもらい、ガイダンス等を行ってもらおう。(県立全日制)
- ・民間(学校法人)は学生募集に熱心なので、どうしても生徒や保護者にはそのような学校に目が向いてしまい、県立高等技術専門学校の認知度が低い。はじめから選択肢から外れている印象。(県立全日制)
- ・インターンシップのような短期体験訓練ができれば知名度が上がるのではないかと。(県立全日制)

【支援を要する生徒】

- ・グレーゾーンの普通科高校卒業生が、経済的に困窮している場合、高等技術専門学校で、より柔軟な受け入れがされるとありがたい。「障害者」に区分されないが、一般企業へ卒業後すぐに就職する力がなく、家庭からの積極的支援を受けにくい生徒が自立へ向けた手段を身につける場があるとよい。(県立全日制)
- ・特別支援学校ではないが、特別な支援を必要とする生徒が増えていると感じる。そのような生徒の職業訓練が必要になってきていると感じる。(県立全日制)

【提案等】

- ・事前に仕事を知ることによって、入社後のミスマッチを減少させることにもつながるのではないかとと思われるので、企業との接点を増やしタイアップできるようなプログラムを作るなど、フレキシブルさのある職業訓練をもっと増やせるとよい。(県立定時制)
- ・小学校や中学校など早い時期から職種や企業の規模によって給与が決定されることを伝えたり、教職員が理解する機会を設けていただきたい。高卒就職は貧しい家庭の生徒が行うという意識が強い。さらに、教職員の中でも高卒と大卒で同じ職種にもかかわらず給与体系が違っていると認識している。そういった誤った認識や考え方をできるだけ早い時期から払拭していかなければ漠然とした進学志向が増え、職業訓練校や本校のような専門高校の人气がなくなり、廃校の危機を迎えると考えられる。(県立全日制)